第１回石鎚山系入山協力金導入検討会　会議録

○日　時　　令和８年 10 月６日（火）17 時から
○場　所　　西条市役所　庁舎新館４階　405 会議室
○出席者
（検討委員・敬称略）
・井口　梓（愛媛大学社会共創学部　教授）※委員長
・山本　貴仁（NPO 法人西条自然学校　理事長）※副委員長
・伊藤　和豊（石鎚登山ロープウェイ株式会社　代表取締役）
・渡辺　二孝（NPO 法人山のボランティア Network　事務局長）
・矢野　真志（面河山岳博物館　学芸員）
・和田　耕明（一般社団法人いの町観光協会　事務局長）
・十亀　博行（宗教法人石鎚神社　権宮司）
・入山　修（愛媛県県民環境部環境局自然保護課　主幹）※オンライン出席
・久松　亮太（高知県林業振興・環境部自然共生課　チーフ）※オンライン出席
・立居場　一徳（林野庁四国森林管理局計画保全部保全課　課長）※オンライン出席
（事務局）
・難波江　明広（愛媛県西条市副市長）※公務により途中退席
・松田　敏（愛媛県西条市企画部長）
・一色　太郎（愛媛県西条市企画部観光振興課　課長）
・田邊　智将（愛媛県西条市企画部観光振興課　副課長）
・丹下　賢人（愛媛県西条市企画部観光振興課　主任）
・矢原　康平（愛媛県西条市企画部観光振興課　主任）
・岡　誠也（愛媛県久万高原町まちづくり戦略課　課長補佐）
・渡部　和也（愛媛県久万高原町まちづくり戦略課　主任）
・増田　麻利（高知県いの町本川総合支所産業建設課　係長）
・眞辺　優輝（高知県いの町本川総合支所産業建設課　主事）
・井上　康征（高知県いの町本川総合支所産業建設課　主事）
・矢野　浩之（高知県大川村むらづくり推進課　主幹）

○会次第

1　開会
2　石鎚山系連携事業協議会　会長あいさつ
3　出席者紹介
4　事務局説明
(1) 検討会の設置について
(2) 検討会の進行等について
5　討議
6　事務連絡等
7　閉会

○議事概要（討議）

以下のテーマに対し、井口委員長をファシリテーターとして討議を行った。

テーマ『今、石鎚山系で起こっていることは？』

※話題に対し発言の時系列については前後あり

（以下、団体名略）

検討会の前提について

■愛媛大学　井口委員

・この検討会の大きな目的は、石鎚山系を将来的にどうしていきたいかということを皆さんに考えていただくこと。将来的にというのは、例えば観光であれば数年先、自然環境であればかなり長いスパンで取り組むことになるかもしれないが、いずれにしても、どうしていきたいかということへ出戻って、今どういう課題を抱えていて、どういうようなことをアクションして起こさなければならないのかということが議論になってくる。
・実際にどうしていきたいかというのは、おそらく漠然としてくることだと思われるが、今まさに目の前で起こっていることはかなり具体的な内容から生じている。例えば自然環境に対し、登山道の整備に関わっている立場からであればこう見えてくる、観光事業者として観光客と関わる人にはこう見えてくるなど、将来的な目標は一緒でも、今見えていることはおそらくバラバラではないかと思う。
・参考資料に記載されていることは、おそらくこのメンバー内ではある程度知られていることなのかもしれないが、例えば誰が土地や登山道を管理しているか、どういう状況なのか、自然はどうなっているかということさえも、多くの方々はあまり知られていないのも現状である。
・あらためて議論して、課題をきちんと明文化して、発信をしていく。また課題に対してアクションを起こしていくということをきちんと整理するのが、この検討会の最も重要なこと。

自然保護に関すること

■西条自然学校　山本委員

・影響が大きい小さい、緊急性が高い低いはあるかと思うが、影響、緊急性のどちらも高いところからいうと、シカの数が増えすぎている、また集中しすぎているということが１番の課題と感じる。
・天狗の登山道の浸食と植生の衰退、これも気になるところである。
・外来種の侵入、登山靴の底に種がくっついてまき込まれてしまうという問題もある。
・過去の廃棄物が色々山の中に残っている。これは緊急性や影響は少ないかもしれないが、将来には残したくないなと思っている。
・（シカについて）江戸時代には石鎚山ってたくさんシカがいたが、江戸時代の終わりぐらいから昭和にかけてどんどんいなくなってきた。一部残っていたエリアがあり（おそらく笹ヶ峰あたり）、その残っていた鹿が 100 年ぐらいかけて復活してきた。復活してきた時に、石鎚山系では森林の状態が天然林だったのが人工林にだいぶ変わってしまっていた。シカが増えた環境から、標高の高いところに集中してしまうということが起こっている。感覚としては、新居浜市から久万高原町の方に向かって段々と影響が広がっている。
・稜線に沿ってシカが集中しているので、笹を食べて尽くしてしまう。石鎚山系には希少な植物が非常にたくさんあるが、そういったものをシカに食べ尽くされてしまう恐れが出てきている。昔からシカは少数いたが、シカの数が戻ってきたことによって、石鎚山系固有の植物が絶滅してしまうかもしれない状況が問題。崖に生えるものは食べられないので大丈夫ではあるが、キレンゲショウマなどはもう既にかなりシカに食べられていると思われる。
・参考資料には希少な動植物を全部は挙げてはいないが、皆さんが思われている以上に石鎚山系でしか生育していないものもあり、全国的に見ても非常に希少な生物がたくさんいることを理解しておかなければいけない。そのために、笹ヶ峰の自然環境保全地域や、石鎚山系森林生態系保護地域などが設定されている。石鎚山系は景色の素晴らしさはよくアピールされるが、生育している生物についてはなかなか伝えられてない部分があるので、そういったことを知ってもらうことも課題とは思う。

※これらの区域等は次回検討会の参考資料に追記

■面河山岳博物館　矢野委員

・天狗岳の植生衰退というのは以前から非常に気になっている。たくさん人が来るということはたくさん歩くということ。植生が下がっているのは明らかだ。過去の古い写真と比較すると、尾根近くが禿げ禿げになってしまっている。正直、人が入らないようにしなければ、回復はしないのではないか。
・笹倉湿原のような景観が綺麗でお客さんを呼ぶ力がある場所、こういうところを今後発信したいところではあるが、利用者数のコントロールが難しい。結局笹倉も人がたくさん行くようになって、面積の縮小や乾燥しているエリアが急激に増えたという印象。当

然登山者も中までは入らないので周りを歩くだけではあるが、湿原の周りが踏み固められて、そこに比較的乾燥に耐える植物が入ってくる。以前はあまりなかった場所にもイやササがものすごく繁殖するようになった。観光利用と保全のバランスをコントロールして運用する場所として笹倉湿原はいいモデルケースになりそうだが、現状は少し利用が優先している感じはする。
・我々が気にしている動物、植物の多様性衰退やシカ問題は、利用者の目に見えないところで変化していく。それが一般に目に見える状態になった時にはすでに問題は大きくなりすぎているだろう。

■石鎚登山ロープウェイ　伊藤委員
・会社でキレンゲショウマの植生（奥前神時手前付近）をしていたが、昨年は半分くらいシカの被害があった。石鎚スキー場にもシカが出没している。ロープウェイ山頂成就駅付近を見ても、リョウブなどの木が一番食べられている。鳴き声もすごくする。
・以前剣山の方で指定管理をしていたことがあるが、剣山の方は被害が大きく、あれだけのことが石鎚山系でも起きると大変。シカの対策は本当に必要だと感じる。

■山のボランティア Network　渡辺委員
・土小屋登山道でも、リョウブがシカに食べられた跡はよく見かけるし、駐車場あたりでもシカの糞を見かけることがある。
・外来種について、石鎚山二の鎖下に公衆トイレがあり「石鎚山クリーンアップ協議会」が管理をしているが、トイレ横の沈殿槽用の広い土地があり、おそらくトイレが出来た時点からだとは思うが、ハルザキヤマガラシやハルジオンが生えている。見つけるたびに抜くようにしているが、時々そこからはみ出してトイレの前まで浸食している。
・天狗岳については、ツアーなどでは行かないように気を付けてもらう必要があると思う。

■石鎚神社　十亀委員
・（天狗岳の植生について）15 年くらい前に、天狗岳は危険ということで入らないようにしようとしてみたが、登山者から「通らせてほしい」という声が非常に多く、結局断念した。5～6 年前に頂上山荘の職員と話し、人はどうしても（天狗岳道中の）下の方を歩きだんだん植生が下がっていくので、道中にマル、バツをつけて、マルの方を通ってくださいと誘導している。私たちとしては危ない、こわいがという気持ちがあるが、先日の連休などでもすごい渋滞になるほどの場所なので、行かないでくださいっていうことはおそらく難しい。植生を守るためには、マルの方を通ってくださいということを徹底するしかないのかなっていうのが、頂上で仕事しながら思うところ。
・天狗岳や弥山はお社もあり天空の城みたいな雰囲気がある。天狗岳からみた弥山も景色がきれいだから、通るのを止めるのが難しい部分もある。

■愛媛大学　井口委員

・（天狗岳の植生について）今回登山者への調査で石鎚山系の価値について聞いてみたところ、弥山から天狗岳の景観という回答が非常に多かった。天狗岳は地形的にも信仰的にも大きな価値のある場所と思うが、植生については自らでそういう状況にしているところに難しい課題があると思う。

■愛媛県自然保護課　入山委員
・愛媛県では、ニホンジカの対策に関する協議会を運営しており、植生保全に取り組んでいる。ただ、こちらも資金不足の面から十分活動に取り組めていないところ。植生被害の防止、希少植物や貴重な動物の保全をどのように図っていくのかが問題である。その辺りは答えを持ってるわけではなく、取り組みをしている中で行き詰まり感がある。なかなかすぐに改善するのは難しいと思いながら活動しているところ。

■高知県自然共生課　久松委員
・高知県でも、希少種の保全や、シカの食害から希少種な植物を守るような取り組みを進めている。希少種の周りにネット柵を張るなどの対策を実際行ったりもしてるが、予算や資材面からも広い範囲をカバーできるようなものでもなく、対応が限定的になり得るところが課題。
・実際に捕獲をかけていけばということもあるが、行政、部局の所管上、当課としては鳥獣の管理や捕獲までは行っておらず、ディフェンスに近い対応で止まっているのが現状。そういった中で、シカの増加に対しどのような対応を考えるべきか、自分たちも答えを持っているわけではないので、今回の検討会の中で議論ができればと思う。

登山環境・登山道整備等に関すること

■山のボランティア Network　渡辺委員
・土小屋登山道は木道が多く、いわゆる「ルンゼ（溝）」と呼ばれる場所に木橋を設置している。落石に十分注意してもらう必要がある。
・成就登山道や土小屋登山道などは、石鎚山への道ということでいわゆる信者さん仕様にできていると思う。
・土小屋登山道の木橋修繕などは、傷んだ木材は下に落ち、新たな木材で修繕をしている。落ちてしまった木材を引き上げることはできないのでそのままにしているが、出来る限り引き上げるなどの対策が必要と思う。
・成就登山道と土小屋登山道の話題が多いが、石鎚山系ではもっと多くの登山道がある。魅力的な山が多くあり、それらをずっと繋ぐ縦走路がある。その整備はそれぞれいろんな団体やっているが、追いついてない。
（検討会後、補足意見）
・石鎚山系を携帯トイレの山系にすべき。ニの鎖下では公衆トイレとして維持して管理を行うが、石鎚山も、その他の山岳も登山道の要所に携帯トイレブースを設置してはどうか。あわせて、回収システムも整備したい（持ち帰って燃えるゴミで出してもよい）。

・石鎚山山頂の、頂上山荘下に位置するどっちつかずのトイレは、完全に携帯トイレブースなどに改修したほうがよいのでは。

■石鎚神社　十亀委員

・資料にもあるが、成就登山道は石鎚神社の私有地（一部を除く）で、土小屋登山道は国有林。登山口手前に土小屋遥拝殿がある。昭和 46 年にスカイラインができて以降、登山道を通る人が多くなり、修繕に関しては神社の方でしていた。今から 10 年ほど前に二の鎖下に公衆トイレができたタイミングで、土小屋登山道の修繕に対しては「石鎚山クリーンアップ協議会」の方で修繕費用を出してもらっている。ただし資材等をヘリコプターで上げる関係があるので、そちらは一部費用を出していただいて、あとは神社で負担をしている。ヘリ代も 5～6 年前からいうと倍くらい価格が上がっており、資材の運搬方法なども考えていかないといけない。
・成就登山道は私有地なので階段や木道を設置したりしてるが、やはり維持管理がなかなか大変。今職員のお手伝いで成り立っていたりするが、階段が傷んだり汚れてしまうなどもあり、果たして階段という道がいいかどうかとも思う。本来であれば自然の地形をうまく利用した方がいいけれど、傾斜がある箇所でもあり、先輩たちが作ってきた道でもある。では今後どのような道がいいのかというところは、まだ専門家の知識もいただきながら考えるべきかなと思っている。
・昔は信者さんが多く登られていたが、最近は少子高齢化の関係もあって、お山開き期間中（７月）の登山者の推移はだんだん右肩下がりになっている。反対にゴールデンウィークとか、紅葉シーズンは増えており、海外からも来られているなど、観光の山になりつつある。
・登山者（特に海外からの方）には、半そでや短パン、サンダルなどで来られる人もおり、怪我がすごく心配。将来的に成就登山道の在り方については考えていきたい。

■石鎚登山ロープウェイ　伊藤委員

・西之川の登山道は、例えば夜明かし峠から降りる、八丁峠から降りる、成就から降りると３つあり下で１つにつながっている。なかなか管理されてないというか、その道の情報も入らないので、ロープウェイの受付でも聞かれたときに、歩けますとは伝えるが、完全に整備などはされていないので、注意してくださいと答えている。強制できないので、そういう風な案内にはなってしまう。

■西条自然学校　山本委員

・（整備された）登山道があろうがなかろうが、歩く人はいる。ほとんど人が通らない登山道もあるし、管理、整備を行う登山道と自己責任で登るルートを区別する必要がある。自己責任で登るルートには誘導しない、案内しないっていう考えもある。

■愛媛県自然保護課　入山委員

・愛媛県では二の鎖下にトイレを設置して、石鎚山クリーンアップ協議会にも維持管理を担ってもらってるという立場。協議会の方でも年々登山道の修復への費用拠出が増加してきている。ボランティア等の方にも一生懸命修繕してもらっており、それに対するご負担もかなりかかってきているというところで、改善する方策はないのかなというところが課題。
・また、修繕にあたって維持管理をする立場となると、管理責任という問題も発生するところ。そこのバランスと言うか、管理は修繕するという立場では当然必要なことではあるものの、管理責任の問題のところも議論のしていく必要があるのかなと懸念している。

■四国森林管理局　立居場委員
・国有林を管理する立場からしても、国有林~~敷地~~内に管理者不在の登山道がある現状は承知している今後、入山協力金の導入等について具体的に検討を進めて、最終的に導入する方向になっていけば、これまでと同様に協力できることは協力していく。具体的に進んでいけば、今後の手続き等は管轄の森林管理署と対応していただきたいと考えている。

観光等に関すること
■いの町観光協会　和田委員
・UFO ラインに人が多くきている。道が狭いが車で来る方も多いので離合がしにくい。落石などの問題もあり、ガードレールも曲がってしまうなど、維持管理に費用も掛かる。
・いの町では、UFO ラインの維持管理に対して昨年度にクラウドファンディングをしてみたところ。
・石鎚スカイラインみたいな広さがあればいいが、なかなかあそこまで拡幅するといったことは難しいのではないか。
・石鎚山等に人が来過ぎているなどは、そこまで感じてはいない。

■山のボランティア Network　渡辺委員
・UFO ラインについては自転車やバイクも多く通っており、危ない場面も多いと感じる。
・以前は、登山は山岳会などが中心となって技術やマナーや装備を整えて登っていたが、最近は多様な人が訪れており、あまり登山という認識を持たずに来ている方が多いような気がする。

■西条自然学校　山本委員
・石鎚山も元々は信者さんの山だったのが、登山の普及で今は観光の方が主流になってきている。色々なことが変わってきていると思う。
・最近の遭難、事故等の対応状況もみても低体温の方とかもいる。寒いと思わず登ってきている人もおり、登山前に調べずに安易に来ているのも問題だと思う。

■石鎚神社　十亀委員

・最近は夜中に登山（下山）される人もいる。夏に十分な装備をせずに登ることで脱水症状を起こし、ヘリで搬送される人もいる。注意喚起はしているがなかなか難しい。神社もヘリは使っているが、年に１回の資材運搬のためなので、体調不良については無理をしないようにとしか言いようがない。

■愛媛大学　井口委員
・登山者を調べてみると、初登山者が多いのと、車中泊が多いことがわかってびっくりした。思いのほか無謀なツアー工程を組んでいる人もいる。

■面河山岳博物館　矢野委員
・20 年近く前であれば、UFO ラインは冬が明けても補修工事のため長期間の通行止めだった。スカイラインや UFO ラインができたころは、新しい道ができたと喜ばれ、ものすごい数の人が来ていた
・スカイラインが開通した後の昭和 50 年代は、あまり記録は残っていないがピークで石鎚エリアに 70 万人がきていたらしい。当時はオーバーユースといった問題は議論されていなかったかもしれない。当時の新聞記事を見ると、これら山岳道路の環境負荷や持続性に対する批判的な記事が複数見られる。人が多く来すぎたことについても社会がどのように扱っていたか、こういった報道調査も必要だろう。
・（面河山岳博物館について）博物館も 35 周年を迎えた。石鎚の自然についてもいろいろな形で伝えてはきたが、なかなか本質の部分は伝わりにくい。今はいろいろなエンターテイメントがある中で、「博物館で学ぶ」ということがさほど重要視されていない。石鎚の自然や歴史の魅力を浸透させられるような、決して強い力を持っているわけではないというのが実感としてある。博物館単独ではなく、様々な団体と一緒にこの価値を伝えることが重要だろう。専門的な部分はこちらに丸投げしていただき、正しく伝えることができる人を増やす取り組みが必要。

■石鎚登山ロープウェイ　伊藤
・昔は、お山開き期間中などはロープウェイも１時間待ちなどが当たり前だったし、中には３時間待ちということもあった。
・最近は片道の通行（ロープウェイから土小屋まで）などが多い。結構問い合わせがある。インバウンドの方も多くて、聞いてみるとお昼前後に来て、頂上まで行って帰ると。片道で大体 6～7 時間かかりますよと伝えるとえっと驚かれる。あまり調べていないと感じる。確かに距離だけ見たら 4 キロぐらいの距離なので、そう考えるのかもしれない。
・インバウンドの方もサンダルや軽装を見かける。気温が 12℃くらいの時もあり大丈夫かなと思うが、割とコースタイムも早い一面もある。

■愛媛大学　井口委員
・（軽装については）西条市にあるモンベルさんやワークマンさんのおかげでちょっとだ

けよくなったかとは思う。

○討議まとめ（各委員への返答、総括）

■愛媛大学　井口委員

（愛媛県自然保護課に対して）

・登山道整備に対して、担い手の方々へのフォロー等をどうしていくかっていうことはとても大きな問題だと思う。

・登山道や施設は維持管理も修繕も必ず必要になるもので、これらの管理責任はもちろん、財源の問題に対してやはり議論していく必要性があるかと思う。

・シカの食害対策について、シカが出ているという現状が分かっていても、財源が厳しい状況にあって十分な保全をできない状況にある。（財源問題は）愛媛県だけではなくて、課題に関わる全ての人たちが今資金大きく不足している、元々よりもかかるようになってきているので、その辺りの議論も必要だろうということ。

（高知県自然共生課に対して）

・シカの食害対策の話があったが、ネット柵等の取り組みがされているものの限定的で、シカに対する対策は基本的には面的にやらなければならないっていうことはわかっているが、わかっていても、資材や財政的な課題で今後どういうふうな対応していくかということがみんなで連携して議論できればということだったかと思う。

（四国森林管理局に対して）

・国有林内の登山道に関しても、今後も色々な形で協力していければということだった。そこで１点、管理者不在の道については、石鎚山系に限らず、登山道の管理をしていく上ではとても重要な議論かと思う。（愛媛県からも）いろんな維持管理を考えていくときに管理責任の問題は避けて通れないという意見をいただいたが、こういった議論も一緒に進めていくことができればと思う。

（全体の整理）

・今回のテーマは石鎚山で今起こっていることはということだったが、自然に関すること、登山道やトイレなどの整備に関すること、観光に関すること、この辺りが主な議論になった。

・自然について議論が多かったのはシカ食害に関すること、外来種のこと、植生が後退しているということ。動植物の影響はシカが増えれば増えるほど大きく影響しており、ただ、利用者には見えていないところで起こっているというのは結構大きな課題だと思う。

・石鎚山の価値に対して今後最終的には議論をしていくが、今、おそらくその重要な価値に観光客が殺到していて、たくさんの人たちが利用するというのは観光の大きな変化を伴っている。また、石鎚山は信仰の対象となっているけれども、信者さんは少しずつ減ってきていて、一方で多様な登山者が増えてきており、インバウンドの人も少しずつ増えているという意見があった。

・観光に関しては、いわゆるオーバーユースの課題があるとか、山岳会や登山会などがいてある意味コントロールされてた観光から、2000 年代は観光のあり方も、登山者のあ

り方も急激に変わってきていて、それに伴う安全、登山の遂行や事故に関わること、こういったものが強く懸念されていた。

・登山道は主に成就登山道と土小屋登山道でそれぞれ修繕が入っており、成就については石鎚神社さん、土小屋に関しては国有林地ではあるがボランティアや協議会の方々など、いろんな方々が複雑に管理をしているような状況。

・成就登山道は木道とか階段とか、修繕の必要な登山道の特性が多くあるのが大きな特徴で、一方で土小屋側の方は崩落している箇所が結構あり、ここは直すのはちょっと難しいかもしれないなという意見もあった。こういった登山道についても、１本の道ではあっても、修繕費用や修繕の仕方、それから管理者が全然違うので、この辺りもきちんと整理してまとめていく必要性があるかと思う。

・道路としては石鎚スカイラインとUF0ラインがあって、もちろんここの維持管理もかなり重要な議論にはなるが、これらは観光の魅力の１つにもなっていて、多くの人たちがこういったところにツーリングなどで訪れている。

・施設でいうと面河山岳博物館。博物館もいろんな利用者の方々が来ているところではあるが、ここもこれからの維持や、継続して活動していくことは石鎚山とっても重要なことでもあるが、それぞれ課題もあるということが議論されていた。

・全般的にいえるのは、やっぱり資金の問題、財源の問題は考えていかなければいけない。いの町さんではクラウドファンディングに挑戦されていて、そういったものを活用していくという方法もあるし、全体的に取り組み事案が多いので、継続的なこういった財源を確保していくっていうのはかなり重要なところ。

・登山道を支えてくれている人の課題もある。ものすごくたくさんの方々が登山道の整備に関わっている。この方々の金銭的負担や、年齢がだんだん上がってきている団体もあるなどの課題がある。重要な人的資源だけれども、こういった方々をどうしていくかということも重要なポイント。

・登山道については、やはり誰がどのように管理していくかということの議論があった。これはとても重要な議論で、しっかりと考えたいところ。

・参考資料にもあるが、登山口もこれだけある。登山口は登山道を結ぶ線で、これだけ線が結んでいることになる。成就登山道、土小屋登山道、あとロングトレイルがおそらく利用者が多い形になってくるが、この中には徐々にアンダーユース、利用者がだんだん少なくなり、優先順位が下がって荒れている、登山道も歩いてみるとそういった場所もあるなという印象。

・今回かなり具体的に様々なご意見をいただくことができた。ビジョンをつくる上でどんな将来像のある山にしていきたいか、それに向かって現状として一体今何が起こっているかということが必要となるが、本日いろいろとご意見をいただいたので、整理して次回以降の討議で見ていきたい。

※事務局で整理し、第２回検討会資料に追加